

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平5-61631

(43) 公開日 平成5年(1993)3月12日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 3/14	3 6 0 D	9188-5B		
15/20	5 6 4 Z	7343-5L		

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 3 頁)

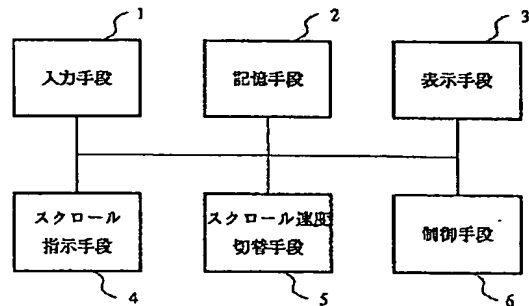
(21) 出願番号	特願平3-222587	(71) 出願人	000004237 日本電気株式会社 東京都港区芝五丁目7番1号
(22) 出願日	平成3年(1991)9月3日	(72) 発明者	首藤 友喜 東京都港区芝五丁目7番1号日本電気株式 会社内
		(74) 代理人	弁理士 内原 晋

(54) 【発明の名称】 画面スクロール方式

(57) 【要約】

【構成】 通常速度では矢印キー「↓」を押下し続けることにより画面スクロール動作が連続的に行われるが高速でのスクロールに切替えたい場合は、矢印キー「↓」を押下のまま、加えて「CTRL」キーを同時押下することにより、「高速」での画面スクロールに瞬時に切替えることができる。

【効果】 画面スクロールを利用して作成した文書中の所望の部分を探す際等、スクロール中に適正なスクロール速度に切替えることができるため操作性を向上できる効果がある。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 文書を入力する手段と、入力された文書を記憶する手段と、入力された文書を表示する手段と、前記各手段を制御する手段とを備えた文書作成装置において、画面のスクロール動作を指示する手段と、スクロール中にスクロール速度を切替える手段とを有することを特徴とする画面スクロール方式。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は画面スクロール方式に関し、特にワードプロセッサなどの文書作成装置における画面スクロール方式に関する。

【0002】

【従来の技術】 一般にワードプロセッサなどの文書作成装置では作成した文書を表示しながら所望の部分を探す際等、画面を上下左右にスクロールするが、従来はこの際のスクロール速度は固定でありスクロール中に変更できない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 上述した従来の画面スクロール方式では、所望の部分を探す際、スクロール量が多い場合に時間がかかる。また、逆にスクロール速度が速すぎる場合表示される文書が見づらく判読できないなど操作性が悪いという欠点があった。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明の目的は、画面のスクロール中に、スクロール速度を切替えることにより適正の画面スクロールを行う方式を提供することにある。

【0005】 本発明の画面スクロール方式は、文書を入力する手段と、入力された文書を記憶する手段と、入力された文書を表示する手段と、前記各手段を制御する手段とを備えた文書作成装置において、画面のスクロール動作を指示する手段と、スクロール動作中にスクロール速度を切替える手段とを有する。

【0006】

【実施例】 次に本発明の実施例について図面を参照して説明する。

【0007】 図1は本発明の一実施例の構成を示すブロック図である。図1において、入力手段1は文書を入力

するもので、たとえば「I」キーボードで構成される。記憶手段2は入力された文書を記憶するものでハードディスクで構成され、表示手段3は文書を表示する手段でCRTディスプレイで構成される。スクロール指示手段4は画面のスクロール動作を指示するもので「I」キーボードの矢印キー「↑」「↓」「→」「←」が一般に利用されている。

【0008】 スクロール速度切替手段5は、スクロール動作中にスクロール速度を切替えるもので、例えば「I」キーボードの「CTRL」キーなどを用いて構成され、スクロール指示手段4と組合せて、「CTRL」キーと矢印キーの同時押下中は「高速」のスクロールを、矢印キーのみを押下中は「通常」のスクロール速度のように構成される。

【0009】 制御手段6は上述した各制御部の動作を含む全体の動作を制御する。

【0010】 以上の構成において、まず矢印キー「↓」を押下し続けることにより「通常」速度の画面スクロール動作が連続的に行われる。この高速でのスクロールに切替えたい場合は、矢印キー「↓」を押下のまま、加えて「CTRL」キーを同時押下することにより、「高速」での画面スクロールに瞬時に切替えることができる。

【0011】

【発明の効果】 以上説明したように、本発明によれば、画面スクロールを利用して作成した文書中の所望の部分を探す際等、スクロール中に適正なスクロール速度に切替えることができるための操作性を向上できる効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一実施例の構成を示すブロック図である。

【符号の説明】

- 1 入力手段
- 2 記憶手段
- 3 表示手段
- 4 スクロール指示手段
- 5 スクロール速度切替手段
- 6 制御手段

【図1】

